あさひ松本病院通信

2007年10月20日発行■発行／あさひ松本病院通信編集委員会■制作／安川オビアス株式会社

10月号 Vol.9

特集

褥瘡対策に取り組んで

―褥瘡ゼロを目指して―

「褥瘡」は、「床ずれ」とも呼ばれていますので、ご存知の方も多いのではないでしょうか。「褥瘡」とは医療用語で、長時間一定の場所に圧力がかかることによって、皮膚組織周辺の血流が悪くなり、壊死（皮膚の組織や細胞が死んでしまうこと）してしまうことです。

どんな人がなりやすいかというと、自分で体を動かすことができない方、高齢者の方、栄養状態の悪い方がなりやすいとされています。当院にも長期に渡って入院療養されている患者さんがいらっしゃいます。その中には、自分で歩くこと、起き上がること、体の向きを変えることができない方や食事を口からではなく、鼻、もしくは直接胃に穴を開けて、その穴に通したチューブから栄養剤を摂っている患者さんがいらっしゃいます。そのような寝たきりの方すべてに褥瘡ができる訳ではありませんが、褥瘡を作らないための働きかけは非常に大事だと言えます。

当院では、次のようにして褥瘡対策に取り組んでいます。

対策1 入院された患者さん全員の褥瘡診療計画書を作成し、全身をチェックします。

チェック項目は、「自分でどのくらい動けるか」「栄養状態は良いか（身長や体重を測ります）」などです。このステップは、たとえ歩ける患者さんであっても、褥瘡になりやすい原因を持っていないかどうかをチェックするために必要です。歩くことはできても、病気で食事が思うように摂れないため、栄養状態が悪く褥瘡ができやすい方もいらっしゃるからです。

対策2 対策1の結果から、褥瘡になる危険のある方にはマットレスを使用していただきます。

当院では、8割の方が体圧分散寝具のマットレスを使用しています。このマットレスはウレタン素材で、寝返りの打てない患者さんでも一か所に圧力がかからないように圧力を分散し、褥瘡になるのを防いでくれます。更に、病状や体格によってエアーマットレスを使用しています。

対策3 個人にあった内容や方法を医師が判断し、現在の状況にあった栄養摂取方法を検討します。

栄養士も「どのような食事内容で、どのような形態（刻んだ食事やとろみのある食事）が食べやすいのか」「栄養状態を良好にするため、どのようにカロリーを摂取していただくべきか」を検討しています。

対策4 自分で寝返りの打てない方には、看護師が定期的に体位変換を行います。

対策5 状態が許す限り、週に2回の入浴を行います。

入浴できないことにより身体の清潔が保てず、褥瘡を誘発する要因になることがあるからです。

対策6 褥瘡のある患者さんは、1か月に一度創部の写真を撮り、治療内容や処置内容を医師と看護師とで検討し、治るまで経過を追い続けます。

褥瘡対策委員会はこのような活動を行うことにより、院内の褥瘡ゼロを目指しています。現場で関わっている看護・介護者が褥瘡を治すために、何が必要であるかの共通認識を持つことが重要であると考えています。

褥瘡の予防・治療方法はここ数年間で大きく進歩しました。しかし、最大限の努力をしても全身の状態が悪ければ、褥瘡の治癒は長引くことになります。褥瘡の治療方法はいまだ発展途上なのです。だからこそ、褥瘡は予防に重点を置いた活動を行っていくことが大切だと考えています。きめ細かい観察眼を持ち、必要時に必要な介助ができるように準備をすることが大切で、褥瘡対策委員会として役割の重要性を痛感しています。

看護師長　永松 容子

トピックス スイーツの魅力

8月23日の午後、恒例となった「おやつバイキング」を実施しました。

今や日本において、お菓子は「スイーツ」と呼ばれ、人気はとどまるところを知りません。当日、キラキラしたステンレス製の大きなトレイに並べられたスイーツたちは、デパートの地下食品売り場のガラスケースに飾られているケーキのように色とりどりで、覗き込んでいる患者さんの顔には笑顔があふれていました。

甘い食べ物の歴史は、人類と同じくらい古くから存在していると言えます。スペインの洞窟に描かれた一万二千年前の壁画やインドの壁画には、断崖絶壁をよじ登って野生の蜂から蜂蜜を採取している場面が描かれています。そのような大昔の時代から、既に人類は甘味を好んでいたのでしょう。

私たちの舌にある味覚は、酸味・苦味・辛味・渋み・甘味の5つに分類されているといわれています。生まれて間もない赤ん坊が、最初に味わうお乳の甘味に強く惹かれることが先天的なものであることからも、人間は生まれながらにして甘党なのでしょう。

スイーツは、栄養やエネルギーの点からいって、私たちの身体に有益なものですが、カロリーやコレステロールの心配もしなければなりません。カロリー制限の厳しい患者さんには、バイキング時に食べたおやつのカロリーを合わせて、食事のコントロールをしていただきました。

どんな味がするのだろうかと期待に胸を膨らませながら、一口食べてみる。その瞬間のわくわくした感じがたまらなく何ともいえない思いをしたことが、誰しもあると思います。私たちに夢を与え、想像力を沸きおこしてくれるお菓子は、人が永遠に求めてやまないものかもしれませんね。

通所リハビリテーション日記

新規一転 通所リハビリテーション

今年8月から新たに職員が加わり、計4名で新しい通所リハビリテーションがスタートしました。

「利用者の方々に不安を与えず、安心して楽しく通える通所作り」を目標に、日々頑張っています。そのためには今までと同じことを行うのではなく、自分たちで試行錯誤を重ねながら、新しいものを取り入れていくことが大切だと考えています。

早速、9月から今までレクリエーションの前に行ってきた体操の代わりに、棒体操を取り入れています。この棒体操の棒は、レクリエーションの時間を利用して利用者の皆さんに作っていただきました。「すごく良いものができたね」「しっかりした棒だから肩を叩くと気持ちがいい」などという声が聞かれました。

ほかにもレクリエーションの一貫として、料理なども取り入れています。料理を行う目的としては、協調性を高め、利用者全員の交流を深めることが挙げられます。また、今ではあまり台所に立つ機会がない利用者の皆さんに、昔を思い出していただきながら楽しんでもらうことも狙いの一つです。前回はわらび餅を作り、出来上がりが見本と多少違ってはいるものの、昔話をしながら普段とは違う笑顔を見ることができ、とても良いものが完成しました。

通所リハビリテーションでは、今後も皆さんの声を聞きながら、様々なものを取り入れていこうと思っています。楽しみにしておいてくださいね。

病院から

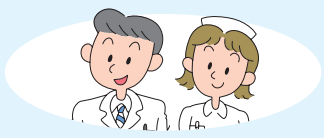
敬老会を開催しました

敬老の日を2日後に控えた9月15日に、「平成19年度 敬老会」を開催しました。毎年参加してくださるひかり幼稚園の園児さんたちのかわいらしい踊りや歌に加え、今回初めて参加してくださった県立小倉東高校ブラスバンド部の生徒さんたちの心のこもった素晴らしい演奏で、会場は患者さんと職員の笑顔と拍手に包まれました。

当院では、今回の敬老会を始め、五月祭り・夏祭り・リサイタル・おやつバイキング・お寿司バイキングなど、様々な年間行事を計画しています。これらの行事が、患者さんの療養生活に少しでも彩りを添え、皆さんに幸せを感じていただければと思っています。

インフォメーション

地域医療連携室をご利用ください。



他病院からのご紹介で転院及び入院を希望される方には、電話でのご相談はもちろんのこと、事前の面談と院内の案内も行っています。入院前に患者さんだけでなく、そのご家族にも当院をしっかり見ていただくことが目的です。また、入院前の不安を軽減し、ご要望をお聞きすることで、安心して入院していただけるのではないかと考えています。

院内を案内しているときに、「清潔で明るく、職員さんが皆さん挨拶をされますね」とお褒めの言葉をよくいただきます。また、最近では地域の方々のご紹介による入院がとても増えてきました。これは当院が目標に掲げている「地域に根ざし、地域の方々に信頼される医療」を知っていただけるようになったからだと思います。

また、入院時は必ず立会いコーディネートを行うようにしています。入院されてからも病室訪問をし、患者さんやそのご家族とお話をさせていただき、ご要望やご相談に応じ、少しでも満足していただけるように心がけています。

「人と人」「人と組織」「人と地域」を結ぶ窓口（コーディネーター）として、「気軽で身近で頼りになる」をモットーに日々頑張っています。院内で見かけたら、お気軽に声をおかけください。患者さん一人ひとりに良質な医療サービスを提供でき、安心して入院していただけるようにこれからも努力していきたいと思います。

お問い合わせ先

地域医療連携室
TEL:093-474-3358
FAX:093-474-3352
E-mail:kanri-m@violin.ocn.ne.jp

理念

誠意・信頼・安心

基本方針

1・患者さんの意志と権利を尊重した医療の提供
2・患者さんと医療情報を共有し、患者さん本位の誠実な医療の推進
3・質の高い医療を提供するために職員の教育・設備の安全・保守管理の徹底
4・患者さんが継続して、一貫した受診が出来るよう地域医療機関との緊密な連携